

広報 ひこね

2002
7/1



けやきの巨木を見上げる（甘呂町にある甘呂神社の境内で）



吉田さん（けやきの大樹の前で）

表紙では、「住みたい 住み続けたいまち」彦根の表情を写真で紹介しています。写真をお持ちでない場合は、困情報政策課広報係で撮影します。☎22-1411（内線431）へ気軽に連絡してください。

東の森には現在も多くの樹木があり、全体が市の保存樹に指定されていますが、最大の偉容を見せるのが表紙写真のけやきです。青々と葉を茂らせるこの大樹は、地上から1・2メートルの所で幹の周りが4・87メートル。樹齢が明らかな芹川堤や彦根城内のけやきの古木との比較から、樹齢は300年以上と考えられるそうです。江戸時代から村人の暮らしを眺めてきたこの大木は、これから静かに私たちの行く末を見守り続けてくれるでしょう。

甘呂神社には東と西に森があり、大昔から親しまれてきました。

現在、西の森の跡は町民グラウンドとして運動会やゲートボールなどに使われています。一角には子ども会が世話をする花壇があつて、季節の花々が目と心を慰めてくれます。

吉田英昭さん（甘呂町）

表紙のことば